



## 就職活動、そして新生活… はじまりの日に

ゲン トウイ ヴァンさん  
(ベトナム出身) NIC地球市民教室講師、多言語スタッフ



ベトナムに工場を持ち、長野県に本社を置く会社から内定をもらい、4月から営業職に就きます。ベトナムと関係がある日本企業を志望し、昨年3月から就職活動を始めました。7月中旬に内定をもらうまでの4か月半で40社を超える企業にエントリーしました。そのうち面接まで進めたのは10社ほどでした。新型コロナウイルス感染症の影響で面接のほとんどがオンラインになり、初めは少し戸惑いましたが、ゼミやキャリア診断の先生に志望動機を添削してもらったなどしっかりと準備してきたので、当日は落ち着いて自分の想いを日本語で伝えることができました。

ベトナムでは、個性をアピールするために自由な服装で就職活動をします。リクルートスーツはありません。日本の就活生がリクルートスーツを着てみんな同じ格好をしているのを見たとき、とても不思議な感じを受けました。

6年前に来日してからずっと暮らしている名古屋は、住み慣れた街で、たくさんの友だちや頼れる人もいます。しかし、せっかく日本に来たので他の地域でも暮らしてみたい

という好奇心と、知らない場所でまたゼロから始めることで、自分がどこまでできるのか試してみたいというチャレンジ精神から名古屋市以外にある企業に就職することを決意しました。

内定をもらった企業は、これまで外国人を採用したことがありませんが、ベトナム人としての私をとて必要とし、期待してくれています。ぜひこの会社で初めての外国人社員として両国の懸け橋となり、会社に貢献したいです。60%のワクワク(期待)と40%のドキドキ(不安)がありますが、どんなことも前向きに考えて新天地での生活を楽しみたいです。



▲インターンシップの様子(奥の右から3番目がヴァンさん)

## NIC レポート

### インターンを終えて

NICでは、この地域の学生が「多文化共生」の現場を体験し、将来グローバルに活躍するために視野を広げることを目的に長期インターン生を受け入れています。昨年10月から6ヶ月間、インターンとしておもにワールド・コラボ・フェスタ(以下WCF)\*2020のステージ企画に携わった名古屋市立大学人文社会学部2年(当時)の高木さんと萬さんが、自身のインターンシップ活動を振り返りました。

高木 萌々佳さん



私たちはWCFの「ワールドステージ」動画で主に司会を担当し、NIC地球市民教室の講師の方をお招きしてマスクや仮面のお話をさせていただきました。参加者の方と直接交流することはできませんでしたが、その場に行かなくともイベントを楽しむことができる、オンライン企画ならではの良さを見つけることができました。

「コロナ禍」という非日常の中で、今まででは経験できない様々なことを今回のインターンシップを通して学ぶことができました。今後も、ユース世代の一人として、変化し続ける時代の中でさらに自分の学びを深めていきたいです。



▲WCF2020動画撮影の様子

萬 太陽さん



WCFの企画は、最も印象に残っています。新型コロナウイルスの影響で、準備期間中の打ち合わせはすべてオンラインになり、動画撮影当日は時間制限の中でステージ企画を行わなければならないなど、難しい状況が続きました。しかし、効率向上に努めて準備を進め、何度もシミュレーションを重ねて撮影に挑んだ結果、納得のいく動画が出来上がったと感じています。今回のインターンシップを通じて、ニューノーマルに対応することとイベントを企画することの難しさを体感しました。この経験を、今後の生活にも活かしていきたいと思っています。



▲エックアドルの伝統的な仮面「アヤヤマ」を被る萬さん

\*ワールド・コラボ・フェスタ(WCF) この地域の国際交流・国際協力・多文化共生に携わる団体や企業が参加する交流イベント。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年12月12日～21年1月11日の1か月間、ウェブサイト上でのバーチャル開催となりました。NICは「ワールドステージ」で多文化マスク・トークショーの動画を発表しました。

## グローバルに活躍する若者たち

### おうちで! グローバルユースカフェ

#### 第2回 「手しごとがつなぐカンボジアと日本」

第2回グローバルユースカフェでは、カンボジアの天然素材「ラベア」を材料に、伝統的な手仕事であるカゴ雑貨を製造・販売する『moily』代表の池宮聖美さん



▲池宮聖美さん

(岐阜県在住)をゲストに迎え、カンボジアで起業するまでの経緯、起業後の紆余曲折した道のりをお話いただきました。オンライン開催ということもあり、名古屋市だけでなく、愛知県、岐阜県からも17名の若者が参加しました。

学生時代に「かわいそうな人達を支援してあげなきゃ」という気持ちでカンボジアを初めて訪れた池宮さん。ところが、そこにはイメージをしていたかわいそうな人達ではなく、お金がなくても笑顔で明るく過ごす人達でした。「新聞やネットの情報ではなく、自分の目で見なければ「リアル」は絶対にわからない」と衝撃を受けます。

一方で、「日本人や先進国の人々から支援してもらうのは当たり前だ」と思っている現地の支援慣れた人々と出会い、一方的な支援のあり方を疑問に思います。現地の人の価値観を大切に、共に考え、解決するために現地に仕事を作ることが重要だと考えています。

参加者からは「助ける」という視点ではなく、相手がやりたい・望んでいることを実現できるように「手助け」をするという視点が大切、「自分の将来の夢について見直すきっかけになった」などのコメントがありました。

現地スタッフとの関係や商品販売など、自身の失敗談についても赤裸々に語ってくださった池宮さん。その姿はとても明るくパワフルで、聞く人の背中を押してくれる素敵なお方でした。『moily』の製品はテレビCMやドラマなどでも使われています。2019年からはインドでの活動も始めたそうです。「楽しみながらたくさんの人を巻き込んで、いつのまにか社会問題も解決」をモットーとする池宮さんの益々の活躍が期待されます。



▲参加者と共に記念撮影

『moily』のウェブサイト、Instagramはこちら



▲ウェブサイト



▲Instagram

## ぶらりライブラリー

このコーナーではNICライブラリーの本やイベントなどをご紹介します。  
NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00~19:00 月曜休館

### あたらしい『はじまりの日』

『はじまりの日』は世界的なミュージシャンであるボブ・ディランの有名な曲を絵本にしたもので、彼自身の子どもの頃の思い出、愛情が詰め込まれています。それを表しているのが、この本(歌詞)の中でよく出てくる「毎日が きみのはじまりの日」という文です。



「はじまりの日」(ボブ・ディラン著・岩崎書店)

原題は「Forever Young」で、日本語に単純に訳すと「いつまでも若く」でしょうか。しかし、「young」には、「若い」、「年下」だけでなく、「始まって間もない」という意味もあります。ページをめくると「なんにでも挑戦し、いつでも勇気を持って成長し続ける人になりますように」という子どもの幸せな未来を願う思いが伝わってきます。このタイトルを「はじまりの日」としたアーサー・ピナードのすばらしい邦訳といえます。また音楽に精通したポール・ロジャースのさわやかな絵が、ボブ・ディランのメッセージをより鮮明に届けて

くれます。春は進学や就職などで環境が変わり、新しいことに挑戦したいと考える季節でもあります。「はじまりの日」に読んでいただきたい一冊です。

「吟遊詩人」とも評されるボブ・ディランの歌詞は、文学的な深味があり、歌手として初めてノーベル文学賞を受賞しました。受賞者は小説家というイメージがありますが、これまで詩人も多く受賞しており、2020年の受賞者のルイーゼ・グリュックもその一人です。

ライブラリーでは、カズオ・イシグロ、ペーター・ハントケなど、ノーベル文学賞受賞者の作品を配架していますのでご一読ください。

URL <https://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/library/assets/c/743bb3ca230a3b216a3e3ecc6b1b9a7429089c44.pdf>

### クイズ

Q 次の中でノーベル賞に存在しない部門はどれでしょうか?

- ①芸術賞 ②生理学・医学賞 ③経済学賞